

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 10 月 7 日

【評価実施概要】

事業所番号	3873300283		
法人名	医療法人 辻井循環器科内科		
事業所名	グループホーム つじい		
所在地	東温市田窪2 5 3 番地2 (電話) 089-964-7321		
管理者	辻井 浩子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 8 月 28 日	評価確定日	平成 20 年 10 月 8 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 7 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 2 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤 13 人, 非常勤 10 人, 常勤換算	16.8 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円	
敷金	有()円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 7 月 20 日事業所記入)

利用者人数	26 名	男性	6 名	女性	20 名
要介護 1	2 名		要介護 2	1 名	
要介護 3	7 名		要介護 4	10 名	
要介護 5	6 名		要支援 2	名	
年齢	平均 86.5 歳	最低 56 歳	最高	99 歳	

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	あり	指定認知症対応型通所介護
届出	あり	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

美しい木や草花が植えられ、瀟洒で落ち着いた雰囲気のあるホームは田園風景の広がる静かな場所にある。運営者である医師が、地域医療に携わる中でホームの必要性を実感し、慢性疾患等で健康に不安のある方等も住み慣れた地域での生活を安心して送れるように、との思いで開設している。管理者が、利用者の健康状態について医師に詳しく情報を伝達し、往診や訪問看護等による手厚い支援があるため、重度や終末期ケアを希望する場合にも、チームとして取り組んでいる。また、利用者一人ひとりの力を詳細な記録により見極め、生活の面でも楽しみの中でもその力を発揮してもらえるよう、一人ひとりに合った介護計画に添って熱心に支援している。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

現状に即した介護計画の見直しについては、ケア行動計画チェック表に介護計画の実施状況を毎日記入することで利用者の状態変化を素早く察知し、見直しに活かしている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

全職員が少しずつ丁寧に自己評価できるよう工夫し、すべての項目について一人ひとりが自己評価に真剣に取り組んでいる。ユニットごとに管理者を含む計画作成担当者がまとめ上げ、完成した自己評価を運営者も目を通し、ホームの取り組みへの理解を深めている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

ホームの活動を詳細に報告し、参加者から評価、助言、要望等を出してもらっている。参加者からの意見等について、職員間で対応について話し合い、感染症の予防対策や外出の機会を増やす等具体的な課題を設定し、感染症予防の研修を受講する等サービスの質の向上に活かしている。地域住民の代表である地区長からは地域行事の案内があり、地域との交流が円滑に行われている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

目安箱、運営推進会議、ミニカンファレンス等、家族が意見を出せる機会を多く設けている。毎月、利用者の暮らしぶりや健康状態を手紙で詳しく知らせたり、来訪時には積極的に会話することで信頼関係が築かれているため、意見や要望等は直接口頭で管理者や職員に伝えてもらうことが多い。要望については介護計画に反映させる等、迅速な対応に心がけている。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

利用者一人ひとりの地域での生活を継続させるよう、地域の敬老会には職員が同行して参加している。また、祭りや亥の子等の地域行事では地域の方の来訪があり、子ども獅子舞や神輿を見て楽しんでいる。近所の方が野菜や花を持ってよく訪ねてくれ、畑仕事の手伝い等の協力も得ている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム つじい

(ユニット名) 東館1階

記入者(管理者)
氏名 辻井 浩子

評価完了日 平成 20 年 7 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 理念に地域密着したグループホームを目指すことをあげ、実践を促している。 (外部評価) 運営者が医師として地域医療に携わる中で、利用者が住み慣れた地域での生活を維持していくための場所が必要であると考え開設されたホームであり、開設以来、地域密着型サービスに取り組んでいる。利用者一人ひとりの個性を尊重し、地域に密着した生活を支援していくことを理念として掲げている。		職員は運営理念を述べる事ができ、運営理念の実現に取り組んでいる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ホール内に掲示しミーティング等で促し、管理者と話し合いを行っている。 (外部評価) 利用者が得意な分野で力を発揮できるよう、一人ひとりに応じた介護計画を作成している。日々その人らしい生活を送ることができるよう、また地域行事への参加や地域の方の来訪を歓迎する等、地域生活の継続にも力を入れている。日々の様々な取り組みに理念が反映されていることから、管理者と職員の理念の共有が十分であることがうかがえる。		ミーティングや申し送り等で実践を促している。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 各館見えやすい所に掲示し、家族や地域の方に尋ねられても説明できる様心掛けている。		わかりやすく説明できるようにする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 農作業を手伝ってくださったり、『いのこ』の子供達を連れて来てくださったり親睦関係がある。 通りがかりに手作りの品等を届けてくださる。		ホームの行事への参加を呼びかけたい
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地方祭・敬老会などに声を掛けてくださっているの、出来るだけ参加し地域の方と交流を図るようにしている。 (外部評価) 地域の敬老会や文化祭に利用者と共に参加し、顔馴染みの方との交流を楽しんでいる。また、秋祭り際には神輿や子ども獅子舞が入る等、地域行事での来訪や花や野菜のおすそわけや畑仕事等のボランティアでの日常的な来訪等、双方向での交流が行われている。		地域の片にも気軽に来てもらえる環境作りをする。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 介護教室等、市町事業を協力している。		その都度、協力していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価を受けた事に関して話し合い、今後更に精進していくことを職員同士で再確認しあっている。 (外部評価) 自己評価項目を少しずつ分け、最終的には職員一人ひとりがすべての項目について自己評価できるよう、熱心に取り組んでいる。全職員が自己評価したものをユニットごとに計画作成担当者がまとめ上げている。		問題があった場合はその都度話し合いを行う。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営委員会で出た貴重な意見を取り上げ職員間で話し合っている。また、報告書を作成し会議参加者に配布している。 (外部評価) ホームの活動報告に対して、参加者が忌憚のない意見や質問を出している。地域住民の代表者から、ゴミの分別について意見が出され、分別を徹底する等即時改善に努めている。また、毎回課題を設定し、感染症予防や外出の機会を増やす等具体的な取り組みにつなげている。		ホームの暮らしやサービスに関する満足を知り、取り組みたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 同一事業所内なので十分連携が図れている。 (外部評価) 市介護相談員派遣事業に協力し、2年前から毎月介護相談員を受け入れ、利用者が要望等を表出する場を設けている。また、市が開催する介護教室にも積極的に参加し、サービスの質の向上を図っている。		いろんな方に会議に参加してもらいたい。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し学んでいる。またそれを持ち帰って勉強会を開いている。制度の内容説明をしている。		多くの研修に参加したい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員がそれぞれの段階に応じた研修を受講している。		多くの研修に参加したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約・解除の際は、管理者、ケアマネ、現場の職員が詳しく説明をし、質問にも対応している。		納得いくまで話しをしている。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付は管理者が対応している。相談、苦情内容は、管理者と計画作成担当者間で報告しあっている。		その都度、対応している。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 月に1回、個人状況を書いたお手紙を送っている。お小遣い帳のコピーも一緒に送付している。面会時に日常の様子をお話している。 (外部評価) 毎月、食事、排泄、入浴、毎日の生活、往診等の項目に分け、詳細な報告を送っている。その際、金銭管理については小遣い帳のコピーを添付している。健康状態の変化時には、電話でその都度連絡している。また、外出・外泊時には日頃の生活状況が分かるよう手紙を渡し、利用者の健康に十分配慮している。		病気等の報告はその都度報告している。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付は管理者が対応している。相談、苦情内容は、管理者と計画作成担当者間で報告しあっている。 (外部評価) 3か月に1回のミニカンファレンス、運営推進会議、目安箱の設置など意見の表出の場を多く設けているが、口頭で直接伝えられることが多い。要望については介護計画に反映させている。苦情相談窓口は管理者とケアマネジャーとしており、迅速な解決に努めている。		目安箱を設置している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者と職員間でミーティングや申し送りをを行い、意見する場や話し合いの場を多く持っている。		意見、提案し、実施している。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者さんの状態等により勤務時間の変更や勤務体制を組んでいる。		ゆとりのある勤務を組みたい。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 必要最小限に職員の移動は抑えて勤務を組んでいる。		どの館にも行けるよう、ミニデイの時などにお話している。
			(外部評価) ユニット間の職員の異動はあるが、毎日曜日に3ユニット合同で交流しているため、他のユニットの職員とも顔馴染みになっており、利用者のダメージは見られていない。最近は離職者もほとんどないため、利用者は安心して過ごせている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ミーティングやカンファレンス時に対応方法を助言し、勉強会も行っている。 外部の研修会にもどんどん参加している。		多くの研修に参加したい。
			(外部評価) 職員は向上心が強く、勤務を調整し、積極的に研修を受講している。研修資料は全ユニットに配布し、誰もが目を通せるようにしている。さらにホーム内で報告会を開き、研修内容を全職員が共有している。新規採用職員は、新人研修として1か月間、母体診療所で介護技術や知識を取得している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 各種講習会や勉強会の案内には積極的に参加し報告会も開いている。 お互いに意見交換を行い交流を深めている。 (外部評価) 市内の他グループホームで見学や研修を行ったり、外部研修の受講時に同業者と交流する機会を持ち、ホームの取り組みで良いところを再認識すると共に、他グループホームの取り組みを参考にしている。		資料に全員が目を通してしている。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 勤務時間以外に電話や会食等で個人的に悩みの聴取を行っている。		話し合いの場を作っている。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員同士お互いが協力し合い、時には競い合って働けるような勤務体制を心掛けている。		研修に参加できるようにしている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) まず本人の話をよく聞き、相づちを打ち、こちらも理解している事を分かってもらうようにしている。		コミュニケーションがとれる場をつくる。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 管理者やケアマネ、現場の職員等と家族間で綿密にモニタリングを行い家族の方の不安や心配事を聞き取るようにしている。		十分に話し合っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面接し、十分に話し合っている。		本人に必要なサービスを提供している。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ショートステイをまず利用し雰囲気を覚えてもらったり、デイケアを利用していた時の顔なじみの職員がお話したりしている。 (外部評価) 母体診療所がかかりつけ医であったり、関連のデイケアを利用している場合は既に顔馴染みになっており、安心して利用できている。ショートステイやデイサービスを利用し、ホームの雰囲気に慣れてからサービスを開始する場合もある。また、事前に自宅等を訪問して開始前から顔馴染みになるような工夫もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 季節ごとに行事を行い、会話がいろいろ出てくる雰囲気作り。 (外部評価) 年末にはおせち料理の作り方や巻きずしの巻き方を教わる等、利用者が活躍する場面を作っている。利用者への支援に対し、「ありがとう」と感謝の言葉をかけられた時には職員も喜びを感じている。また、絵の上手な利用者には、職員や他の利用者の似顔絵を描いていただき、みんなで楽しく会話している。		誕生日会（月1回）、運動会、週1回のミニデイなど。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人の生活状況を家族に伝えたり、話をすることでコミュニケーションをとり信頼関係を作り、本人を支える関係作りに努めている。		面会時に職員も一緒に話しをしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 随時、気軽に訪問されている。 大半は各居室に入り自由に過ごしてもらっている。		消極的な家族さんには、お小遣いがなくなった時等に訪問していただける様、連絡している。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域や入居者に馴染みの季節のならわし等を、入居者主体になってもらいながら家庭的な雰囲気で行っている。		片手薬師や近くのスーパーへ出かける。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 自然と仲間意識が生まれ、お互いに助け合う場面が食事中や洗濯たたみの時等にみられる。		ホールで楽しく過ごせる環境作り。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 利用終了の際もきめ細かく引き継ぎ、説明を行い、アフターフォローにも気をつけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の意見や要望を聞く。 (外部評価) 利用者との会話から思いや意向を把握するよう心がけており、日々の介護支援経過表に利用者の言葉を記録し、職員間で共有している。会話の困難な利用者については、家族や利用者をよく知る関係者等から情報を得て、本人の立場に立って考えている。		日常生活の中でいろいろしてもらおう事により、何がご本人にとって希望している事を話し合っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) フェースシートに経歴等を明記し、ミーティング等で個人の背景を知るようにしている。 家族に話しを聞く。		普段の会話で昔の事を聞いている。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 自由に居室やホールで過ごしてもらっている。お手伝いやレクリエーション等を行っている。		個人的にADL表やフェースシートを作成し全員が目を通せるようにしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) アセスメントに基づいて、利用者主体の目標を立て利用者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画の作成。 (外部評価) 詳細なアセスメントシートを作成し、利用者についての情報を収集・把握した上で、本人や家族の意見や要望を聞くミニカンファレンスを開いている。その後、医師や訪問看護師等も加わったカンファレンスで話し合い、本人本位の介護計画を作成している。利用者がその人らしく暮らすことができるよう、サービス内容は具体的である。		3ヶ月に1度行い、必要であれば家族にも参加してもらっている。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月に1度見直している。 状態が変化した時はその都度見直ししている。 (外部評価) ケア行動計画の実施状況を毎日チェック・評価することで、状態変化をすぐに察知できるようにしている。3か月に1度アセスメントシートを作成して見直しを行っているが、状態変化があればその都度カンファレンスを開き、新たな計画を作成している。		必要に応じて家族の参加をしてもらっている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 経過表、カルテ記入、バイタルチェック、行動チェック表に記入。 3ヶ月に1度見直ししている。		記録も活用して介護計画の見直しをしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 家族の要望や意見をカンファレンスで取り入れる様になっている。 (外部評価) 利用者が習慣にしていた寺院参りを継続できるように外出を支援したり、通院介助をするなど、本人や家族の要望に応じている。また、関連のデイケアでの活動に参加することで利用者の生活に広がりを持たせ、母体診療所の看護師による訪問看護で健康管理を強化している。居室に空きがある場合はショートステイとして利用でき、デイサービスも行っている。		ケアプラン作成の際も家族の要望や本人がしたいと思っ ていることを取り入れるようにしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) ボランティアの受け入れは常に行っている。 地域の行事等は利用者と一緒に行き交流に努めている。		防災訓練は消防署から隊員の方に来てもらい講習を受けている。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他事業所とも連携をとり、福祉用具のレンタル等利用者一人ひとりに合わせたサービスの提供を行っている。		本人に必要なサービスを提供している。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 成年後見人制度についての相談に行ったり、包括支援センターとの協働も行っている。		本人が暮らしやすいようにしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 常時連絡がつけるようにしており、救急の際はすぐに対応できるようにしている。 (外部評価) 母体診療所の医師である運営者がかかりつけ医であるケースが多いが、それ以外の方も入居時に本人や家族の希望で運営者を主治医に選んでいる。月2回の定期的な往診以外にも、必要時に往診や訪問看護を受けられる体制となっている。主治医が利用者の状態を十分把握できるよう、健康状態を詳しく記録し、提示している。		病変した時はすぐに報告し、対応してもらっている。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 認知症診断や対応方法等の指示や助言をもらえる医療機関がある。		月2回の往診や検査等を受けている。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護師も従事している為、日常の健康管理ができています。		気になる事はすぐ報告している。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 状態が安定したら、通院に向けての指示等を仰いでいる。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 医師及び医療機関との連携を図り、医師の指示により管理者を中心に多職種協働体制のもとで尊厳を支える看取りに努める。 (外部評価) 利用者の状態が変化した時などに、重度化した場合や終末期のあり方について家族と話し合い、意向を確認している。ホームでの生活を望む場合は、看取り介護の指針に基づき、医師や看護師等と共に新たな介護計画を作成し、方針を共有している。		看取り介護の指針を作成している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 医師や管理者、ケアマネ、介護職員と家族の間でカンファレンスを行い、本人や家族の希望を考慮したケアプラン作りを行っている。		定期的にケアプランの見直しをしている。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 環境の変化によるダメージが最小限になるようにホームでの生活ぶりやその人の好きなこと好きな食べ物等、些細な事まで情報を文書化して報告し連携をとっている。またいつでも連絡をしやすいような雰囲気、関係作りに努めている。		十分な話し合い、情報交換をしている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 利用者に対して尊敬尊重した態度、言葉使いで接するように心掛けている。職員同士で話し合うようにして態度には心配りをしている。 (外部評価) 言葉かけや対応が不適切な時にはその都度職員間で注意し合っており、利用者の尊厳を守るための徹底した指導体制が確立している。昼食時に汁物をこぼした利用者に対し、本人の誇りを損ねないよう配慮した言葉かけがなされていた。		職員の言葉使いや態度が悪い時はすぐに注意をする。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 「受容」の姿勢を心掛け利用者の意見に耳を傾けている。また本人の好きな事ややりたい事をケアプランにも盛り込んで日課として取り組んでいる。		定期的にケアプランを見直している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事やお風呂、就寝等一人ひとりのペースに合わせて声掛けし支援している。 (外部評価) 昼食後、居室で休む、居間のソファで気の合う方同士でテレビを見る、ゆっくり昼食をとる等、一人ひとりがそれぞれのペースで過ごせるよう支援している。また、別ユニットの利用者と話したい方をお連れする等、利用者の希望に沿った支援をしている。		本人が何を希望しているか話し合う機会をもっている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 理容師に出張していただき、理容・美容を利用している。		店へ行く時は、家族と一緒にしている。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員も一緒に食事を摂っており、おかげの感想を聞く等のコミュニケーションをとりながら楽しく食事が出来ている。食事の準備・片付けを利用者に手伝ってもらっている。 (外部評価) 自分で食事をとることのできる利用者が、食事介助の必要な利用者を見て、自分も介助してもらいたい時は、少しか介助をし、本人が納得して自分で食べ始めたら見守る等、きめ細かな支援をしている。また、ユニットごとに検査者が食事の評価をし、より良い献立になるよう努めている。		家庭的な食器を使っている。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲酒や喫煙をする利用者は現在いない。 おやつは自分の好きな物を買っている。		行事用のメニューを取り入れている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) プライバシーには十分配慮し、本人の生きる力を生かした排泄の支援を心掛けている。(日中はトイレの声掛け、誘導を行う等)		排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう支援している。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴前に利用者に声掛けをし時間や順番など本人の希望に添えるようにしている。また入浴後の髪の毛のセットなどお洒落に気をつけている。 (外部評価) 重度の方にも入浴を楽しんでもらえるよう、リフト浴の設備がある。基本的には週2回以上の入浴となっているが、利用者の状態に応じて、入浴できない時には清拭をしたり、必要であればシャワー浴を利用するなど清潔の保持に努めている。また、車いすごと入浴できる特殊浴槽が関連施設にあり、必要時には利用可能である。		入浴の好きな方には、のぼせない様気をつけ、ゆっくりと浴槽につかってもらっている。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 疲労時や倦怠感の訴えがある時、または興奮されたり落ち着きがないとき等も声掛けし、落ち着いていただける様休息してもらっている。		昼夜逆転みられる方は手伝いやレクリエーション等で日中の覚醒を促している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 意思表示が出来ない方へは、生活歴などでいろいろ働きかけ、何が楽しいのか、何が嬉しいのかを見極めていくように努めている。 (外部評価) 暮らしの中で利用者の好きなことが役割となっており、洗濯物たたみ、草引き、日めくり、ゴミ捨て、買い物時の荷物持ち、台拭き等を楽しみながら行っている。活動的な方はデイケアへ遊びに出かけられるよう支援している。毎日曜日、3ユニット合同の交流会を持ち、花見や誕生会、よもぎ蒸しパン作り等一緒に楽しんでいる。		その人に合った手伝いをしてもらっている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人が使えない場合は職員が手助けしたり、代わりに買い物に行っている。		本人の欲しい物を本人に買い物してもらう。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 「散歩に出たい」と言われたり、帰宅願望がみられるとき等には状態に応じて支援している。 (外部評価) 毎朝駐車場でラジオ体操を行い、また夕涼みのため戸外に出ている。近くのスーパーやコンビニに買い物に出かけたり、散歩をしたり、一人ひとりの希望に合わせて外出支援している。遠出をする際は関連施設の車を借りて出かけている。		天気の良い時は外で体操やレクリエーションを行っている。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 買い物等、本人の希望に添えるよう時間や場所を聞いて支援している。		家族さんから外泊の希望がある時は、外泊用紙に必要事項を記入し渡している。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を書きたいと言われる利用者は職員が手伝いながら書いて出されている。希望があれば、その都度電話をしてもらっている。		電話する時はゆっくり話ができるようにしている。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 家族は随時気軽に訪問されている。利用者とホールや居室にて自由に過ごしてもらっている。職員からも日常の様子を報告しコミュニケーションをとっている。		ゆっくりと話ができる環境作り。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 精神興奮時の利用者や暴力行為のみられる利用者に対して身体拘束をしない方法での対応を心掛けている。		他の利用者に危険がないようにする。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の鍵は掛けずセンサーを設置している。 職員が見守り、気を配るようにしている。 (外部評価) 玄関にセンサーをつけ、外出を察知できるようにしている。書類の記入時にも見守りしやすいよう、机をホールが見渡せる向きに配置している。できるだけ鍵をかけないケアを心がけているが、入浴介助や排泄介助等で見守りが手薄になる場合は、利用者の安全に配慮して一時的に施錠している。		外へ出ようとされる時はそのまま散歩へ行ったり、手伝いをしてもらったりし、気分転換を図っている。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 常に職員の目の届く所に利用者がいるように職員が移動し、またそれが不自然にならないよう位置や動作に配慮している。		何をしているか把握しておく。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物品は利用者の目の届かない所にまとめて保管している。		居室内の家具を置く位置も利用者に合わせて配置している。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故報告書やヒヤリハット報告書を作成し職員が皆一緒に反省点や対策を検討し再発防止に努めている。		研修や防火訓練を受けている。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時の対応についてマニュアルがあり、職員は目を通している。		応急方法等の講習や消防署の講習を受けている。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防訓練を定期的に行っている。 (外部評価) 年2回、消防署の協力を得て日中を想定した避難訓練を利用者と共に行っている。自立歩行の困難な方が多いため、火事を出さないよう火の始末には細心の注意を払っている。また、運営推進会議でも地域の方に協力をお願いしている。	※	マニュアルを作成し、周知、徹底をする。 職員の緊急電話連絡網を作成して災害に備えているが、特に夜間の災害時にはすぐに駆け付けられる利用者の家族や地域の方に協力を得られるよう具体的な取り決めをしておくことや、夜間を想定した避難訓練に参加してもらうこと等を期待したい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 利用者の日頃の状況を家族に詳しく報告し、また起こりうる危険に対してはどのような対応を行っているのか職員間で検討したうえで対策を報告している。		カンファレンスに家族さんも参加してもらう。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日バイタル、水分・食事摂取量等を測定し少しでも変化があれば管理者に報告し対応している。また利用者本人を日常的によく観察し少しでもサインがあれば見逃さないように務めている。		気付いた時は、すぐに報告し対応している。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ADLの低下により、服薬の管理、服薬介助を職員が行っている。一人ひとりの薬剤情報を把握し細心の注意を払って服薬の対応をしている。		一人ひとりの薬剤情報がいつでも確認できるようにしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 医師に相談し個人個人にあった便秘予防、排便コントロールを行っている。		排便コントロール表を作成している。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりに合った口腔ケアを実施している。		健口体操をしている。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バイタル表に毎回食事摂取量、水分摂取量を記入し1日のトータル量も算出し状態の把握に努めている。 (外部評価) 母体診療所の管理栄養士が立てた献立を基本に、近所の方にいただいた野菜をメニューに加えたり、利用者の好みに合わせたりするなど、適宜変更している。体重の増減をグラフ化して食事量を調節し、適切な水分量の確保にも心がけている。利用者の状態に合わせて刻み食、ミキサー食、お粥等にも対応している。		毎週体重測定をし、体重の増減も考慮して提供している。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 疥癬、MRSA、肝炎などは感染症対策マニュアルを独自に作成している。 インフルエンザは予防接種を行っている。 研修会に参加し、ホーム内でも対策会議を開いている。		多くの研修に参加したい。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 感染症の研修に出たりマニュアルを作成し清潔保持に気を配り日常的に衛生管理に努めている。		食材の買い物は3～4日ごとに行き、新鮮な物が使えるようにしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 常に環境整備に心掛け、家庭的な雰囲気を心掛けている。		花を飾ったり、置物を置いている。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節にあわせた飾りを職員や利用者で作って飾っている。 グループホーム新聞を掲載したりして明るい雰囲気になっている。 (外部評価) 最初に建てられた西館は居室からの眺めを良くするように設計されているが、日中ほとんど居間で過ごす方が多いため、東館は居間からの眺めも良くするように改善している。近所の方から頂いた季節の花を活け、利用者が描いた花や似顔絵を飾り、明るい雰囲気である。立て簀で強い日差しを防ぐ工夫もしている。		落ち着ける雰囲気作りをする。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 強要せず、本人の居たい場所で過ごしてもらっている。		席順も考えて座ってもらっている。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご自分が今まで使っていた物を置いたり、写真を飾ったりして配慮している。 (外部評価) 自分が作った俳句を短冊に書いて飾ったり、自宅で猫を飼っていた方は猫のポスターを貼って見て楽しめるようにしている。ベッドや箆笥等の家具も使い慣れたものを持ち込んでいるが、重度化に伴って介護用のベッドを母体診療所から譲り受けたり、家族が新しく購入したりしている。		寝たきりの方にも見えやすいように壁に飾ったりしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 外気温と差がないように気をつけながら、扇風機やエアコンを使い分けている。また換気をこまめに行い、室内の空気にも配慮している。		各居室にも1台ずつエアコンが設置してあり一人ひとりの希望に対応している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ、浴室、廊下に手すりを設置している。		出来ない事への不安や不満が取り除けるよう介助をしている。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりの状態に合わせて本人が落ち着いて過ごせる様配慮し、職員が常に見守りを行っている。		時間がかかっても、出来る事はしてもらっている。
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 施設の前に花壇や畑を作り、利用者にも水やりや野菜の収穫に参加し楽しんでもらえる場面を作っている。		ベランダにイスを置き、日向ぼっこをされている。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	一人ひとりの話しを聞き、思い等を理解し介護を行っている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	毎回食事の際は一緒にテーブルで職員も食べてコミュニケーションをとっている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員が強制するのではなく、利用者一人ひとりのペースに合わせた生活の支援を行っている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者が活躍する場面、楽しそうにする場面を見つけ出しそれをケアプランに盛り込んで実行している。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	加齢に伴い外出が困難な利用者が増えてきているが、利用者の希望に添えるようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日のバイタルチェックと病院への報告、緊急時の病院との連携が図れている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	食事や入浴など利用者一人ひとりの気分や体調に合わせて生活支援を行っている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族が来所された時には利用者のホームでの生活を報告している。また質問や疑問、要望されたことに関しては迅速に対応している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	地域行事には参加の案内の声を掛けてくださる。また推進運営会議では必ず地域住民の方が参加して下さっている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域住民の代表の方が運営推進会議にて、普段聞けない貴重な意見を述べてくださっている。
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者とコミュニケーションをとり、一緒に笑ったり楽しんだりし家庭的な雰囲気働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者一人ひとりに合わせ、話しをよく聞き穏やかに生活が送れていると思う
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族からの苦情は殆どない。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

毎日バイタル測定を行い、健康管理が行き届いている。職員がまじめに努力し精一杯対応していて好感が持てる。精神面、健康面、トータルでサポートしている。楽しく笑いあいながら毎日を過ごしている。家庭的で寂しくなく温和に過ごされている。帰宅願望みられる時も強制はせず本人のペースで過ごしてもらっている。環境もよく、落ち着いた雰囲気もあり、明るいホームである。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームつじい

(ユニット名) 東館2階

記入者(管理者)
氏名 辻井浩子

評価完了日 平成 20 年 7 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) ホームの運営理念を利用案内時の説明文書及びホームの見やすい所に明示し且つ利用者及びその家族や代理人等に分かりやすく説明している。 (外部評価) 運営者が医師として地域医療に携わる中で、利用者が住み慣れた地域での生活を維持していくための場所が必要であると考え開設されたホームであり、開設以来、地域密着型サービスに取り組んでいる。利用者一人ひとりの個性を尊重し、地域に密着した生活を支援していくことを理念として掲げている。		すべての職員がホームの運営理念を並べる事ができ、常に運営理念の実現に取り組む。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう、地域に対する運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。 (外部評価) 利用者が得意な分野で力を発揮できるよう、一人ひとりに応じた介護計画を作成している。日々その人らしい生活を送ることができるよう、また地域行事への参加や地域の方の来訪を歓迎する等、地域生活の継続にも力を入れている。日々の様々な取り組みに理念が反映されていることから、管理者と職員の理念の共有が十分であることがうかがえる。		ミーティング等で実践を促す
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) グループホーム新聞を毎月発行し、家族や支援センターにも発送している。		理念を尋ねられると各人が説明できるようにする

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 地域の人達が遊びに來たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。		近くで農作業をしている地域の方にすすんで挨拶を交わしている。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 近隣住民、家族、ボランティア等が入居者の生活の拡がりや充実を図ることを応援してくれるよう働きかけを行っている。 (外部評価) 地域の敬老会や文化祭に利用者と共に参加し、顔馴染みの方との交流を楽しんでいる。また、秋祭りの際には神輿や子ども獅子舞が入る等、地域行事での来訪や花や野菜のおすそわけや畑仕事等のボランティアでの日常的な来訪等、双方向での交流が行われている。		家族の参加は目立つが地域の人の参加は殆どみられない。関わりをもっと持てるよう努めたいと思う。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 認知症に対する理解やかかわり方についての相談、対応家族ボランティア等の見学、研修の受け入れ等に取り組んでいる。		ホームの機能を入居者のケアに配慮しつつ地域に開放する
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) ケアサービスの質の評価の意義について職員に周知し評価結果をサービス改善に活かしている。またその体制がある。 (外部評価) 自己評価項目を少しずつ分け、最終的には職員一人ひとりがすべての項目について自己評価できるよう、熱心に取り組んでいる。全職員が自己評価したものをユニットごとに計画作成担当者がまとめ上げている。		管理者と職員による話し合いを毎日1回行っている。また急を要する場合はその都度行っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営委員会で出た貴重な意見を取り上げ職員間で話し合っている。また、報告書を作成し会議参加者に配布している。 (外部評価) ホームの活動報告に対して、参加者が忌憚のない意見や質問を出している。地域住民の代表者から、ゴミの分別について意見が出され、分別を徹底する等即時改善に努めている。また、毎回課題を設定し、感染症予防や外出の機会を増やす等具体的な取り組みにつなげている。		課題を設定し、次回までの目標にしたり経過を報告したりしている。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 介護相談員の受け入れをしている。 連絡協議会にも参加してもらっている。 (外部評価) 市介護相談員派遣事業に協力し、2年前から毎月介護相談員を受け入れ、利用者が要望等を表出する場を設けている。また、市が開催する介護教室にも積極的に参加し、サービスの質の向上を図っている。		相談員と利用者がなかよくなり、お話しをよくされている。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、学んでいる。 またそれを持ち帰って勉強会を開いている。		各人資料を用いてレポートを作成し自分のものにしていく。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会の参加し、資料に職員全員が目を通し高齢者の方の尊厳についての意識を再確認しあっている。		身体拘束に関するマニュアルを作成した。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約、解約の際は管理者、ケアマネや現場の職員が詳しく説明をし質問にも対応している。		何回も相談に応じ不安や疑問の無い様に対応している
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付は管理者が対応している。 相談、苦情内容は管理者、計画作成担当者間で報告しあっている。		苦情等に迅速に対応できるよう常時職員は管理者への報告・連絡・相談に努めている。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 月に一回個人状況を書いたお手紙を送っている。 面会時に日常の様子をお話している。 お小遣い帳のコピーを手紙と一緒に送付している。 (外部評価) 毎月、食事、排泄、入浴、毎日の生活、往診等の項目に分け、詳細な報告を送っている。その際、金銭管理については小遣い帳のコピーを添付している。健康状態の変化時には、電話でその都度連絡している。また、外出・外泊時には日頃の生活状況が分かるよう手紙を渡し、利用者の健康に十分配慮している。		入居者さんの状況に応じて直接電話で話すこともある。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付は管理者が対応している。 相談、苦情内容は管理者、計画作成担当者間で報告しあっている。 (外部評価) 3か月に1回のミニカンファレンス、運営推進会議、目安箱の設置など意見の表出の場を多く設けているが、口頭で直接伝えられることが多い。要望については介護計画に反映させている。苦情相談窓口は管理者とケアマネジャーとしており、迅速な解決に努めている。		苦情等に迅速に対応できるよう常時職員は管理者への報告・連絡・相談に努めている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者と職員間で、ミーティングや申し送りで意見する場や話し合いの場を多く持っている		管理者も含めて常時申し送りを行っている
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者さんの状態等により勤務時間の変更や勤務体制を組んでいる。		利用者酸の状態に応じて職員の配置も考慮する
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 必要最小限に職員の移動は抑えて勤務を組んでいる。 (外部評価) ユニット間の職員の異動はあるが、毎日曜日に3ユニット間で交流しているため、他のユニットの職員とも顔馴染みになっており、利用者のダメージは見られていない。最近は離職者もほとんどないため、利用者は安心して過ごせている。		移動はほとんどない。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ミーティングやカンファレンス時に対応方法など助言し、勉強会も行っている。外部の研修会にもどんどん参加している。管理者が直接指導することもある。 (外部評価) 職員は向上心が強く、勤務を調整し、積極的に研修を受講している。研修資料は全ユニットに配布し、誰もが目を通せるようにしている。さらにホーム内で報告会を開き、研修内容を全職員が共有している。新規採用職員は、新人研修として1か月間、母体診療所で介護技術や知識を取得している。		講習があれば率先して参加している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 各種講習会や勉強会の案内には積極的に参加し報告会も開いている。お互いに意見交換を行い交流を深めている。 (外部評価) 市内の他グループホームで見学や研修を行ったり、外部研修の受講時に同業者と交流する機会を持ち、ホームの取り組みで良いところを再認識すると共に、他グループホームの取り組みを参考している。		悩み事などお互いの意見交換を行っている
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 勤務時間以外に電話や会食等で個人的に悩みの聴取を行っている。		職員間の交流も公私ともに行っている。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員同士、お互いが協力し合い時には競い合っているような勤務体制を心掛けている。		管理者は常時職員の様子を観察し側面から働きかけている
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) まず本人の話をよく聞き、相づちを打ち、こちらも理解している事を分かってもらうようにしている。		受容するという姿勢を心がけている。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) ケアマネ、関係医療機関、家族と十分な情報交換と話し合いを行っている。		いつでも相談に乗れる体制が整っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族さんの質問や相談内容にはその日のうちに返答が出来る様に迅速に対応している。		ミーティングや申し送りで提案できている。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ショートステイをまず利用し雰囲気を見てもらったり、デイケアを利用していた時の顔なじみの職員が対応したりし不安感が少しでも緩和されるように対応している。 (外部評価) 母体診療所がかかりつけ医であったり、関連のデイケアを利用している場合は既に顔馴染みになっており、安心して利用できている。ショートステイやデイサービスを利用し、ホームの雰囲気に慣れてからサービスを開始する場合もある。また、事前に自宅等を訪問して開始前から顔馴染みになるような工夫もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 一緒にお菓子を作ったり、料理を教えてもらったりと共に生活し楽しみや喜びを分かち合える場面を作っている (外部評価) 年末にはおせち料理の作り方や巻きずしの巻き方を教わる等、利用者が活躍する場面を作っている。利用者への支援に対し、「ありがとう」と感謝の言葉をかけられた時には職員も喜びを感じている。また、絵の上手な利用者には、職員や他の利用者の似顔絵を描いていただき、みんなで楽しく会話している。		一人一人の気分に合わせて会話を心がけている
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホームの行事や運営推進委員会の参加の声かけを行っている。面会時に利用者さんの普段の生活を報告したり、手紙にて月に一回報告している。		面会時に職員も一緒に会話をし情報収集している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 利用者と家族との交流支援を行っている。気軽に訪問できる雰囲気作り、ホームの行事の参加や歓迎、関係再構築の支援を行っている。		ゆっくりお話ができるよう居室に案内したり会話が通じない時などはフォローしている。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者さんの生活暦を本人や家族から聞き、把握しそれを中心にした話題やお楽しみ会を開いたりしている		週1回のミニデイや散歩で各館にお連れしている。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者一人一人の性格を判断し、仲良くコミュニケーションを取れる場面が多くもてるように配慮している。		利用者さん同士の会話で通じない、聞こえない時は職員が間に入ってフォローしている。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 利用終了の際も、きめ細かく引継ぎ説明しアフターフォローにも気を付けている。		電話で様子をお伺いしたり訪問などで関わりを持っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員が常に受け身の姿勢で利用者さん本人の意見を尊重している。 (外部評価) 利用者との会話から思いや意向を把握するよう心がけており、日々の介護支援経過表に利用者の言葉を記録し、職員間で共有している。会話の困難な利用者については、家族や利用者をよく知る関係者等から情報を得て、本人の立場に立って考えている。		利用者さんとの会話で意見を聞いている

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) フェイスシートを作成しこれまでの経歴などを明記しておりミーティング等に活用している		家族の方が面会に来られた時にこれまでの生活歴などを伺い把握できるように努めている。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 会話や行動、態度などを通してご本人の希望やしたいと思っていることを察して状態を把握している		個人毎にADL表やフェイスシートを作成している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 3か月おきに（入退院があればその都度）ケアプランを見直している。その際は管理者、主治医、ケアマネ、介護職員、場合により利用者家族も出席してもらいケアプランを作成している。 (外部評価) 詳細なアセスメントシートを作成し、利用者についての情報を収集・把握した上で、本人や家族の意見や要望を聞くミニカンファレンスを開いている。その後、医師や訪問看護師等も加わったカンファレンスで話し合い、本人本位の介護計画を作成している。利用者がその人らしく暮らすことができるよう、サービス内容は具体的である。		家族の方にも参加してもらえるようにケアプランを見直す際は電話連絡をし参加を促している。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) ケアプランを3か月に一度見直しており、その時々の変化によって見直しを行いカンファレンスで新たな計画を作成している。 (外部評価) ケア行動計画の実施状況を毎日チェック・評価することで、状態変化をすぐに察知できるようにしている。3か月に1度アセスメントシートを作成して見直しを行っているが、状態変化があればその都度カンファレンスを開き、新たな計画を作成している。		入退院時や病状の変化によって介護計画を見直し立て直している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人別に経過表を作成し、言動をやケアの実践状況を詳しく記録し情報の共有化を図っている。		行動チェック表や経過表に基づきケアプランの見直しを行っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 家族の要望や意見をカンファレンスで取り入れる様になっている。 (外部評価) 利用者が習慣にしていた寺院参りを継続できるように外出を支援したり、通院介助をするなど、本人や家族の要望に応じている。また、関連のデイケアでの活動に参加することで利用者の生活に広がりを持たせ、母体診療所の看護師による訪問看護で健康管理を強化している。居室に空きがある場合はショートステイとして利用でき、デイサービスも行っている。		ケアプラン作成の際も家族の要望や本人がしたいこと、望んでいることを取りいれるようにしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 防災訓練のときには東温市消防本部から隊員の方が来て講習をしたり、民生委員の方が運営推進会議に参加して下さったり、協力を得ている。		地域の行事のお誘いも受けるので夏祭りやいのこ等に参加させてもらっている。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他事業者との連携をとり、福祉用具のレンタル等利用者一人一人に合わせたサービスの利用を行っている。		エアマットを使用したり、ポータブルトイレの購入、介護ベッドをレンタルしたりしている。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 成年後見制度を利用する際に、相談に行ったり運営推進会議に出席してもらったりと、協力を得ている。		2カ月に一回の運営推進会議には包括支援センターから1人参加してもらっている

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 緊急時の対応がスムーズにいくように、かかりつけ医とは綿密に連携が取れている。 (外部評価) 母体診療所の医師である運営者がかかりつけ医であるケースが多いが、それ以外の方も入居時に本人や家族の希望で運営者を主治医に選んでいる。月2回の定期的な往診以外にも、必要時に往診や訪問看護を受けられる体制となっている。主治医が利用者の状態を十分把握できるよう、健康状態を詳しく記録し、提示している。		月に2回の往診がある。他の病院とも連携が取れている。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 主治医および脳神経内科がいる。尚且つ毎日主治医にバイタルを報告している。		主治医が認知症のことをよく理解されているので、職員にもアドバイスして下さる。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) ホームの職員に看護師が従事している為、日常の健康管理ができ、医療面でも支援が行き届いている。		看護師も利用者さんに声をかけて下さる。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時も情報交換がスムーズにいくように介護要約書にて報告したり、電話連絡を行い綿密に連絡を取り合っている。		職員が入院先に訪問し現状態、退院時期などの情報を聞き取ることも行っている。
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 主治医や管理者、ケアマネ、介護職員と家族間でカンファレンスを行い本人や家族の意向をまず優先して取り入れられるよう配慮し方針を立てている。 (外部評価) 利用者の状態が変化した時などに、重度化した場合や終末期のあり方について家族と話し合い、意向を確認している。ホームでの生活を望む場合は、看取り介護の指針に基づき、医師や看護師等と共に新たな介護計画を作成し、方針を共有している。		重度化の場合のマニュアル「看取りの指針」を作成している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 主治医や管理者、ケアマネ、介護職員と家族間でカンファレンスを行い本人や家族の意向をまず優先して取り入れられるよう配慮し方針を立てている。		「看取りの指針」のマニュアルを作成している。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 環境の変化によるダメージが最小限になるようホームでの生活ぶりやその人の好きな事、好きな食物等些細なことまで情報を文書化して報告し連携を取っている。またいつでも連絡が取りやすいような雰囲気づくりに努めている。		介護要約書に細かく記入している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 利用者さんに対して尊敬尊重した態度・言葉使いで接するように心がけている。 (外部評価) 言葉かけや対応が不適切な時にはその都度職員間で注意し合っており、利用者の尊厳を守るための徹底した指導体制が確立している。昼食時に汁物をこぼした利用者に対し、本人の誇りを損ねないよう配慮した言葉かけがなされていた。		個人のファイルは棚の中に見えないように保管している
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 「受容」の姿勢を心がけ利用者さんの意見に耳を傾けている。本人の好きな事ややりたい事をケアプランの中に盛り込んで日課として取り組んでもらっている。		散歩が好きなら散歩をする、家事が好きなら無理のない程度にお手伝いをして貰う等ケアプランに盛り込んでいる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員は入居者一人一人が自分で選択できるような機会を持ち、また自分の意見を述べられるような雰囲気づくりに努めている。 (外部評価) 昼食後、居室で休む、居間のソファで気の合う方同士でテレビを見る、ゆっくり昼食をとる等、一人ひとりがそれぞれのペースで過ごせるよう支援している。また、別ユニットの利用者と話したい方をお連れする等、利用者の希望に沿った支援をしている。		日常生活の中で何ご本人にとって希望であるのかを職員間で話し合う機会を設けている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 入居者一人一人の希望に合わせて理美容の利用をいただいている。		月に一回、散髪屋にホームへ訪問してもらい散髪していただいている。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 週に一回利用者さんの好きないなり寿司やちらし寿司お出ししたり、季節やイベントに合った献立づくりを行っている。 (外部評価) 自分で食事をとることのできる利用者が、食事介助の必要な利用者を見て、自分も介助してもらいたい時は、少しだけ介助をし、本人が納得して自分で食べ始めたら見守る等、きめ細かな支援をしている。また、ユニットごとに検食者が食事の評価をし、より良い献立になるよう努めている。		クリスマスやお正月、秋の冬至など季節の行事に合わせたメニューを作っている
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 献立のメニューとは別に入居者さんのお好きな物を飲んだり食べたりしていただけるよう、対応している。		巻き寿司が好きな方に献立とは別に用意しお出ししている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に合った介助方法がある。		夜間はビックパットを利用するようになり入居者さんが安心して夜間眠れるようになった。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) くつろいだ入浴時間が持てるように、ご本人の希望に沿った入浴介助を行っている。 (外部評価) 重度の方にも入浴を楽しんでもらえるよう、リフト浴の設備がある。基本的には週2回以上の入浴となっているが、利用者の状態に応じて、入浴できない時には清拭をしたり、必要であればシャワー浴を利用するなど清潔の保持に努めている。また、車いすごと入浴できる特殊浴槽が関連施設にあり、必要時には利用可能である。		お風呂がお好きな方には湯船にゆっくりつかっていただいている。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の睡眠パターンを把握し、夜間に眠れない入居者様には1日の生活リズムを見直し、昼間に起きていただくよう声掛けし安眠できるようフォローしている。		昼夜逆転傾向の方にはなるべく昼間に起きていただくよう心がけている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 本がお好きな方には本を読んでもらいぬり絵が得意な方はぬり絵を塗っていただいている。家事がお好きな方は食器拭き等のお手伝いをいただいている。 (外部評価) 暮らしの中で利用者の好きなことが役割となっており、洗濯物たたみ、草引き、日めくり、ゴミ捨て、買い物時の荷物持ち、台拭き等を楽しみながら行っている。活動的な方はデイケアへ遊びに出かけられるよう支援している。毎日曜日、3ユニット合同の交流会を持ち、花見や誕生会、よもぎ蒸しパン作り等一緒に楽しんでいる。		フェイスシートにてその人の経験や過去の職業、生活歴、趣味などを知り、それに沿ったケアプランを作成している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お買い物にお連れし、ご本人にほしいものを購入していただいている。		入居者さんのADLの低下に伴い、実際にお買い物に出かけられる方の人数は極一部となっている。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 入居者さんのADLの低下に伴い外出も難しくなってきたが、外出の際は車椅子を使用し出かけている。 (外部評価) 毎朝駐車場でラジオ体操を行い、また夕涼みのため戸外に出ている。近くのスーパーやコンビニに買い物に出かけたり、散歩をしたり、一人ひとりの希望に合わせて外出支援している。遠出をする際は関連施設の車を借りて出かけている。		近所のコンビニまで職員と一緒に歩かれる入居者さんもいらっしゃる。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 個別に家族との外出などがある場合は職員も率先して協力している。外出届や外泊届を記入し家族に渡している。		お花見や公園、緑化センターやお寺等お出かけの機会を作っている。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者さんの友人から電話がかかってくることもある。		電話をかけたり訪問しやすい雰囲気づくりに心がけている。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 家族さんは気軽にホームへ訪問できている。職員との間により関係が築けている。		友人がみえられる時もある。利用者さんの近況を報告し、また職員の方からも質問したりしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 興奮や暴力、暴言のある入居者さんには拘束を行わない方法での介護に努めている。身体拘束のマニュアルを作成している。		身体拘束に関する研修にも参加している。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関をはじめ、居室にも鍵は掛けていない。自由に行き来出来る開放感にあふれた空間になっている。 (外部評価) 玄関にセンサーをつけ、外出を察知できるようにしている。書類の記入時にも見守りしやすいよう、机をホールが見渡せる向きに配置している。できるだけ鍵をかけないケアを心がけているが、入浴介助や排泄介助等で見守りが手薄になる場合は、利用者の安全に配慮して一時的に施錠している。		センサーを設置しており必要に応じて施錠するようにしているが、ほとんど施錠したことはない。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 常時一人一人の様子を観察している。危険を未然に防げるような配置、危険な物を手の届くところに置かないように配慮している。		夜間はまめに巡視している。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 洗剤や薬品、包丁やハサミなど危険を及ぼすものは見えないところに保管しており、職員が把握している。		入居者一人ひとりの行動パターンを把握しており、それも危険防止につながっている。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 防火訓練を実施したり、事故に関するマニュアルを作成しあらゆる事故に対応できるよう努めている。研修にも参加している。		研修に参加できなかった職員にも資料を配布したり読んでもらっている。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 東温消防署にて行われた講習に職員も出席している。		応急処置の方法を職員も学んでいる。 AEDを今年に入り西館に設置している。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 火災をはじめ他の災害についてもマニュアルを作成し周知徹底に努めている。地域の方とは日頃挨拶を交わすなど、顔なじみになっている。 (外部評価) 年2回、消防署の協力を得て日中を想定した避難訓練を利用者と共に行っている。自立歩行の困難な方が多いため、火事を出さないよう火の始末には細心の注意を払っている。また、運営推進会議でも地域の方に協力をお願いしている。	※	救命救急の講習を毎年受けている。 職員の緊急電話連絡網を作成して災害に備えているが、特に夜間の災害時にはすぐに駆け付けられる利用者の家族や地域の方に協力を得られるよう具体的な取り決めをしておくことや、夜間を想定した避難訓練に参加してもらうこと等を期待したい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 一人一人に合ったケアプランを作成し、カンファレンスにて入居者さんの場面や気付き、リスクについても話し合っている。		リスクについてカンファレンス時やホームへ来所時に説明し同意を得ている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日バイタルチェックを行い、異常の早期発見に努めている。異常の際はすぐに先生に報告するように徹底している。		入居者さんの体調を見て1日1検から3検、血圧や脈、体温、SP02を測定している。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ADLの低下に伴い服薬が困難の入居者さんが多く、職員がまとめて管理し服薬の介助も行っている。薬剤情報がいつでも見れるように保管している。		職員の一人一人が薬の内容を理解し病状の把握にも努めている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排便の有無を毎日チェックしている。一人一人の便のコントロールをし、起床時に冷水を飲んでもらうなどその人に合ったフォローをしている。		排便コントロール表を作成している。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 入居者さんの口腔状況（自歯・儀歯・部分入歯等）に応じた口腔ケアを実施している。		中にはクルリーナブラシなどの器具を用いて口腔ケアを実施している。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の体調や体重の増減等も考慮してその人にあった食事の提供、水分の補給ができています。 (外部評価) 母体診療所の管理栄養士が立てた献立を基本に、近所の方にいただいた野菜をメニューに加えたり、利用者の好みに合わせたりするなど、適宜変更している。体重の増減をグラフ化して食事量を調節し、適切な水分量の確保にも心がけている。利用者の状態に合わせて刻み食、ミキサー食、お粥等にも対応している。		毎週木曜日に体重測定を行っている。 体重の増減をグラフにして記録している。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症マニュアルを作成しており各館に設置している。職員それぞれが周知徹底している。		(MRSA等) 感染症対策の勉強会にも職員が出席している。その時学んだことを持ち帰り他の職員にも伝達し共有化を図っている。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 布巾やまな板の殺菌消毒の徹底、食品の管理など適切に行っている。こまめに掃除を行い清潔保持に努めている。		保健所にて行われている勉強会にも参加している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 違和感や威圧感を感じさせないよう、玄関周りに花を置いたり、各居室には表札をつけたりアットホームな雰囲気づくりに努めている。		畑では野菜を栽培し、入居者さんも一緒に収穫している。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホームの中でも季節を感じてもらえるように、花や絵を飾っている。共有スペースで寛いでいただけるよう自分の家のような雰囲気づくりに努めている。 (外部評価) 最初に建てられた西館は居室からの眺めを良くするよう設計されているが、日中ほとんど居間で過ごす方が多いため、東館は居間からの眺めも良くするよう改善している。近所の方から頂いた季節の花を活け、利用者が描いた花や似顔絵を飾り、明るい雰囲気である。立て簀で強い日差しを防ぐ工夫もしている。		四季折々の絵を塗ったり飾っているが、入居者さんにも参加していただいている。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自室とホールを行ったり来たりできるような配置になっており、入居者さん一人一人が好きな場所、落ち着く場所で過ごせるようにしている。		ソファが好きな方はソファに座っていただいている。テレビがお好きな方はテレビがよく見えるところで過ごされている。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者さんの趣味のもの、好みのものに囲まれて暮らせる様に以前から使用されていた愛着のあるものをホームでも使用していただいている。 (外部評価) 自分が作った俳句を短冊に書いて飾ったり、自宅で猫を飼っていた方は猫のポスターを貼って見て楽しめるようにしている。ベッドや箆箆等の家具も使い慣れたものを持ち込んでいるが、重度化に伴って介護用のベッドを母体診療所から譲り受けたり、家族が新しく購入したりしている。		壁に猫のポスターを張られたり、自作の俳句を飾られている入居者さんもいらっしゃる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気を1日2回は実施し、空気のだよみを解消している。空調は夏は25度から26度、冬は20度くらいに設定し、冷えすぎず暑すぎずを心がけている。		各居室にもエアコンを設置しており、入居者さんの希望に沿って対応している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下には手すりを設置している。トイレにも便器の横に手すりを設置しており、起立訓練も兼ねている。		浴槽にラバーマットを敷いて転倒を防止している。出来ない事への不安や不満を取り除けるよう優しく見守り介助を行っている。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 入居者一人一人のできることを見つけそれを維持できるよう職員間で話し合いケアプランを作成している。		時間がかかっても食事や衣類の着脱など出来る範囲の事はしていただき、職員は見守りを行っている。
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 外には花壇や畑がある。時々入居者さんがベランダにて田園風景を眺められている。		ベランダに花を置いたり、洗濯物を干したり生活感を出している。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者一人一人の希望を重視しまず本人の話を傾聴する姿勢で介護に取り組んでいる。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	毎回食事の際は一緒にテーブルで職員もコミュニケーションをとりながら食事している。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者は職員のペースではなく自分がやりたい時間やタイミングで生活を送っている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の活躍する場面、楽しそうにする場面を見つけ出しそれをケアプランに盛り込んでいる。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の高齢化に伴い外出が困難な入居さんが増えてきている。花見や緑化センターへの外出、お買い物など出来る入居さんにはお出かけの機会を持つようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日バイタルチェックと病院への報告、緊急時の病院との連携が図れている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	食事や入浴など利用者一人一人の気分や体調に合わせて生活支援を行っている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	」
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 ② 数日に1回程度 評価) 3 たまに 4 ほとんどない	地域の行事には参加の案内の声をよくかけて下さる。運営推進会議では必ず地域住民の方が参加して下さっている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域の行事には参加の案内の声をよくかけて下さる。 運営推進会議では必ず地域住民の方が参加して下さっている。
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者と一緒に笑ったり楽しんだりする場面があり、共に生活を送っているような気持ちで働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者から不平や不満の声はなく一人一人ゆったりと生活が送れている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族からの苦情はない。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

健康管理が行き届いている。

職員がまじめに努力し精いっぱい対応できていて好感が持てる。

精神面・健康面トータルでサポートしてくれる。利用者は楽しく笑いあいながら毎日を送れている。

家庭的で寂しくなく温和に過ごしている。環境もよく落ち着いた雰囲気もあり明るいホームである。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームつじい

(ユニット名) 西館

記入者(管理者)
氏名 辻井浩子

評価完了日 平成 20 年 7 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 地域に密着した理念を掲げ、より良いグループホームを目指すよう実践を促している。 (外部評価) 運営者が医師として地域医療に携わる中で、利用者が住み慣れた地域での生活を維持していくための場所が必要であると考え開設されたホームであり、開設以来、地域密着型サービスに取り組んでいる。利用者一人ひとりの個性を尊重し、地域に密着した生活を支援していくことを理念として掲げている。		個人の個性を活かし、地域と密着した理念を掲げ、広報などで外部に知ってもらっている。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ホール内に掲示して、ミーティングなどで実践を促している。管理者より朝申し送り時、随時指導を受けている。 (外部評価) 利用者が得意な分野で力を発揮できるよう、一人ひとりに応じた介護計画を作成している。日々その人らしい生活を送ることができるよう、また地域行事への参加や地域の方の来訪を歓迎する等、地域生活の継続にも力を入れている。日々の様々な取り組みに理念が反映されていることから、管理者と職員の理念の共有が十分であることがうかがえる。		日々の介護が理念に添って行われているか、確認し合う大切さを職員に知らせている。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 各館見え易い所に掲示し、家族や地域の方に尋ねられても説明出来るようにしている。		運営推進委員会や広報などで明確にしている。理念を尋ねられると各職員が説明出来るようにする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 通りがかりの方でも気さくに声をかけてくれている。又、手作りの品をホームに持ってきてくださる方もいる。農作業を手伝ってくださったり、いのこ、地方祭などで親睦関係がある。		通りに面しているので、利用者さんの外での活動時に交流が持てる。庭に花を植えたり、野菜を作っているのによく声を掛けられる。進んで地域の方に声を掛ける。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) いのこ、地方祭、敬老会などで交流を持っている。2ヶ月に1回の連絡協議会で交流を持っている。 (外部評価) 地域の敬老会や文化祭に利用者と共に参加し、顔馴染みの方との交流を楽しんでいる。また、秋祭り際には神輿や子ども獅子舞が入る等、地域行事での来訪や花や野菜のおすそわけや畑仕事等のボランティアでの日常的な来訪等、双方向での交流が行われている。		毎年秋祭り、いのこで地域の方の訪問を受けている。文化祭や地域の行事には利用者さんと一緒に参加して、ホームのことを知ってもらおう。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 認知症に対する介護方法や理解などの相談にいつでものれるようにしている。ボランティア、研修の受け入れ体制がある。		専門の知識を活かし、相談や訪問がある時は応じている。利用者さんに配慮しながら、地域に開放する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価を受けたことに関して、話し合い改善すべきことは実施し、サービスの向上を目指している。 (外部評価) 自己評価項目を少しずつ分け、最終的には職員一人ひとりがすべての項目について自己評価できるよう、熱心に取り組んでいる。全職員が自己評価したものをユニットごとに計画作成担当者がまとめ上げている。		職員全員が評価項目に目を通しそれぞれの項目に対して見直し、改善に向けている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営委員会で出た意見を取り上げ、職員間で話し合っている。また、会議後、会議の内容の報告書も配布している。 (外部評価) ホームの活動報告に対して、参加者が忌憚のない意見や質問を出している。地域住民の代表者から、ゴミの分別について意見が出され、分別を徹底する等即時改善に努めている。また、毎回課題を設定し、感染症予防や外出の機会を増やす等具体的な取り組みにつなげている。		利用者さんや家族さんにも参加していただき、要望などお聞きしている。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 介護相談委員の受け入れをしている。 (外部評価) 市介護相談員派遣事業に協力し、2年前から毎月介護相談員を受け入れ、利用者が要望等を出せる場を設けている。また、市が開催する介護教室にも積極的に参加し、サービスの質の向上を図っている。		介護相談委員の方の意見を聞き、見直しを行う。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、学んでいる。研修に参加出来なかった職員には報告しホーム内で学んでいる。		研修に積極的に参加しホーム内で学習する機会を持っている。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し、マニュアルを作成し職員全員が目を通し、高齢者の尊厳についての意識を再確認し虐待防止に努めている。		職員同士で注意し合ったり、管理者からの指導も受けている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、ケアマネや職員が詳しく説明し、質問にも対応して不安のないように対応している。		何回も相談に応じ不安や疑問のないように対応している。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 相談員の訪問などで表せる機会を持っている。苦情受付は管理者が対応している。相談、苦情内容は管理者、計画作成者間で話し合っている。		管理者が毎朝の申し送りの場で受けている。苦情や意見の対応はすみやかに行っている。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 月に1度個人の状況をお手紙に記入して送っている。その時に個人の小遣い帳のコピーを同封している。面会時に日常の様子をお話している。熱発など急な身体変化は、電話で家族さんに伝え治療方法など説明している。 (外部評価) 毎月、食事、排泄、入浴、毎日の生活、往診等の項目に分け、詳細な報告を送っている。その際、金銭管理については小遣い帳のコピーを添付している。健康状態の変化時には、電話でその都度連絡している。また、外出・外泊時には日頃の生活状況が分かるよう手紙を渡し、利用者の健康に十分配慮している。		ホーム新聞、お手紙、小遣い帳のコピーなど毎月送付している。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付は管理者が対応し、計画作成者や担当者で報告、話し合い改善に向けている。 (外部評価) 3か月に1回のミニカンファレンス、運営推進会議、目安箱の設置など意見の表出の場を多く設けているが、口頭で直接伝えられることが多い。要望については介護計画に反映させている。苦情相談窓口は管理者とケアマネジャーとしており、迅速な解決に努めている。		運営推進委員会にいつも違う家族さんに参加していただいている。相談員の訪問なども受けている。又、目安箱を用意し家族さんに声掛けている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者と職員間で、ミーティングや申し送りで話し合いの場を多く持ち、それぞれの意見を十分に聞いている。		施設以外でも意見や提案を聞く場所を持っている。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 状況に応じて対応出来るようになってきている。		利用者さんの状態に応じて職員の配置人数など考慮している。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 必要最小限に職員の移動をおさえて勤務を組んでいる。職員は常に他館の入居者さんとも交流を持っているので、各館での異動の際は特に問題はない。 (外部評価) ユニット間の職員の異動はあるが、毎日曜日に3ユニット間で交流しているため、他のユニットの職員とも顔馴染みになっており、利用者のダメージは見られていない。最近は離職者もほとんどないため、利用者は安心して過ごせている。		職員は他の館の利用者さんにも声を掛け交流を持つよう日ごろから努めている。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) カンファレンスやミーティングで管理者やDr. が対応方法など助言し、勉強会も行っている。管理者がその都度、直接指導もしている。外部研修会にも、進んで参加している。 (外部評価) 職員は向上心が強く、勤務を調整し、積極的に研修を受講している。研修資料は全ユニットに配布し、誰もが目を通せるようにしている。さらにホーム内で報告会を開き、研修内容を全職員が共有している。新規採用職員は、新人研修として1か月間、母体診療所で介護技術や知識を取得している。		研修や勉強会の案内はたくさん来ているので、質の高い研修や勉強会に参加出来るようにしている。職員の段階に合わせた研修に参加出来るように考えている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 各種講習会や勉強会には積極的に参加し、報告を聞いた り、お互い意見交換を行って交流を持っている。 (外部評価) 市内の他グループホームで見学や研修を行ったり、外部 研修の受講時に同業者と交流する機会を持ち、ホームの 取り組みで良いところを再認識すると共に、他グループ ホームの取り組みを参考にしている。		交流会では、悩みごとなどお互い意見交換を行っている。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 個人的に悩みがある場合は、時間外に電話や会食等で聴 取を行い相談にのっている。職員の配属にも気を付けて いる。		職員の相性や職員と利用者さんの相性も考えて配置して いる。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) お互いに協力競い合って働けるような勤務体制を心がけ ている。運営者は常に職員を把握し、努力や実績を誉 め、声かけることにより、他の職員の相乗効果を高めて いる。		管理者は常に職員の様子を観察し側面から働きかけてい る。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人からの話しを十分に聞き、相づちを打ち、こちらも 理解している事を分かってもらうようにしている。		話しを聞くをいう姿勢を持ち利用者さんの立場に立って 物事を考えるようにしている。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 話し合いには十分な時間をとり、家族等の不安や心配を 聞き取り、受け止めるようにしている。		いつでも相談に乗れる体制がととのっている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談には、管理者や職員間で話し合い、より良い方法を考え迅速に対応している。		十分な話し合いの場を持ち、信頼関係をもてるようにしている。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ショートステイを利用したり、ミニデイなどに参加していただき、雰囲気に馴染んでもらっている。又、馴染みの職員や利用者さんが対応し不安のないようにしている。 (外部評価) 母体診療所がかかりつけ医であったり、関連のデイケアを利用している場合は既に顔馴染みになっており、安心して利用できている。ショートステイやデイサービスを利用し、ホームの雰囲気に慣れてからサービスを開始する場合もある。また、事前に自宅等を訪問して開始前から顔馴染みになるような工夫もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 野菜作りやお菓子作り等を一緒に行い、いろいろ教えてもらうことで共に生活し楽しみや喜びを共感出来る場を持っている。 (外部評価) 年末にはおせち料理の作り方や巻きずしの巻き方を教わる等、利用者が活躍する場面を作っている。利用者への支援に対し、「ありがとう」と感謝の言葉をかけられた時には職員も喜びを感じている。また、絵の上手な利用者には、職員や他の利用者の似顔絵を描いていただき、みんなで楽しく会話している。		料理の仕方を教えてもらったり、野菜を植えたりしている。収穫した野菜などをすぐに食卓に出すようにしている。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や、月1回の手紙などで、利用者さんの状況を報告し互いに交流を持ち喜びや心配ごとなど共感している。		悩みごとや改善すべきことを一緒に考え、同じ目線で利用者さんを支援するようにしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 気軽に訪問できる雰囲気を作り、ホームの行事への参加や歓迎、より良い関係づくりを支援している。		家族さんへの行事への参加協力をお願いしている。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者さんの生活暦を本人や家族さんに聞き、行事に活かしている。神社などお参りにも行っている。行った場所で声をかけられている。		毎月の隻手薬師参りをとり入れている。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者さん一人一人の性格を把握し、より良いコミュニケーションがとれるよう着席などに配慮している。ホールにソファを置きいつでも交流が持てるようにしている。		食が進まない利用者さんへ他の利用者さんが、声を掛けてくださったり、食事の介助をしてくださる。座る位置など考慮している。
32		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) サービス利用が終了してもアフターフォローをし、いつでも相談にのれるようにしている。		電話で様子をお伺いしたり、訪問などで関わりを持っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 出来るだけ本人の希望に添うようにしている。困難な場合は本人の主体性を尊重し、より良い決定が出来るように助言している。 (外部評価) 利用者との会話から思いや意向を把握するよう心がけており、日々の介護支援経過表に利用者の言葉を記録し、職員間で共有している。会話の困難な利用者については、家族や利用者をよく知る関係者等から情報を得て、本人の立場に立って考えている。		意思表示の出来ない利用者さんに対しては、表情などを観察したり、家族さんの意見をお聞きして職員で話し合いを持っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族さんや本人から利用者さんの生活歴を聞き、職員全員が把握し地域の行事に参加したり、それを中心にした話題やおミニデイを開いたりしている。		それぞれの職員が得た利用者さんや家族さん地域の方の情報を他の職員にも伝え全員が把握しサービスに活かしている。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 個人ごとのADL表やフェースシートを作成し目を通して見ている。毎日経過表を記入し、個人一人一人の1日の過ごし方を全員が把握している。		ADL表は、状態に変化があった時や定期的に見直し改正している。カルテ、経過表、行動チェック表に記入しそれぞれにつながるのがある記入方法をとっている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にケアプランを見直している。入退院や状態の変化によってモニタリングを行い、管理者、主治医やケアマネ、職員でより良いサービスの向上を目指している。時には家族さんも出席して話し合いを持っている。 (外部評価) 詳細なアセスメントシートを作成し、利用者についての情報を収集・把握した上で、本人や家族の意見や要望を聞くミニカンファレンスを開いている。その後、医師や訪問看護師等も加わったカンファレンスで話し合い、本人本位の介護計画を作成している。利用者がその人らしく暮らすことができるよう、サービス内容は具体的である。		利用者ご本人にもプランに対して意見をもらっている。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月に1度ケアプランの見直しを行っている。入退院時や状態の変化によってプランの見直しをその都度行っている。 (外部評価) ケア行動計画の実施状況を毎日チェック・評価することで、状態変化をすぐに察知できるようにしている。3か月に1度アセスメントシートを作成して見直しを行っているが、状態変化があればその都度カンファレンスを開き、新たな計画を作成している。		ミニカンファレンスに利用者さんや家族さんにも参加していただき要望や意見を出していただいている。カンファレンスには、主治医、ケアマネ、管理者とも話し合っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日、利用者さんごとにカルテや経過表を記入し全員が把握しケアプランの作成や日々の介護に活かしている。		日誌には、必ず目を通し職員全員が確認のサインをしている。気づきを大切にして管理者や職員同士で話し合いを持っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 家族の要望や意見をカンファレンスで取り入れる様になっている。 (外部評価) 利用者が習慣にしていた寺院参りを継続できるように外出を支援したり、通院介助をするなど、本人や家族の要望に応じている。また、関連のデイケアでの活動に参加することで利用者の生活に広がりを持たせ、母体診療所の看護師による訪問看護で健康管理を強化している。居室に空きがある場合はショートステイとして利用でき、デイサービスも行っている。		ケアプラン作成の際も家族の要望や本人がしたいこと、望んでいることを取り入れるようにしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 防災訓練では、消防署の方に来ていただき、講習を受けたり指導をしてもらっている。ボランティアの受け入れをしている。推進委員会には、包括センターの方や区長さんに参加してもらって、意見交換を行っている。		防災訓練では、実際消防署に電話したり、ホームに来ていただいたりと協力を得ている。文化センターや市役所、警察署が近くにあるので、交流が持ちやすい。トラブルがあった時にはホームの前にある警察の方が相談にのってくれる。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他の事業所と連携をとり、福祉用具のレンタルなど利用者本人にあったサービスを提供している。		デイケアに行ったり、福祉用具などの家族さんからの相談にものっている。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 成年後見制度について相談に行ったり、包括支援センターとの交流も持っている。		毎月包括支援センターから相談員の方が来られ意見交換を行っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 母体が病院である為、綿密に連携がとれている。緊急時には、適切な医療が受けられるよう主治医が手配してくれる。 (外部評価) 母体診療所の医師である運営者がかかりつけ医であるケースが多いが、それ以外の方も入居時に本人や家族の希望で運営者を主治医に選んでいる。月2回の定期的な往診以外にも、必要時に往診や訪問看護を受けられる体制となっている。主治医が利用者の状態を十分把握できるよう、健康状態を詳しく記録し、提示している。		月に2回の往診がある。外科や皮膚科、耳鼻科、歯科との連携もとれていて適切な医療が受けられる。主治医は時間を問わずいつでも来てくださる。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 主治医及び神経内科医がいる為、いつでも相談できる。		主治医が認知症のことをよく理解されている為、職員に指導して下さる。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) ホーム内に看護師がいる為、日常の健康管理が出来る。病院内の看護師も利用者さんのことを把握しているので、医療面でも支援できている。		病院の看護師が利用者さんにいつも声を掛けてくれる。利用者さんへの対応も指導してくれている。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には、情報を介護要約書や電話連絡にてスムーズに提供し、綿密な連絡をとっている。		入院時には、面会に行き励ましや状態確認を行っている。要望があればホームで使用しているものを持っていつている。
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 本人や家族さんの意向を聞き、主治医やケアマネ、職員や家族間で話し合い方針を立てている。 (外部評価) 利用者の状態が変化した時などに、重度化した場合や終末期のあり方について家族と話し合い、意向を確認している。ホームでの生活を望む場合は、看取り介護の指針に基づき、医師や看護師等と共に新たな介護計画を作成し、方針を共有している。		主治医や家族さんとの連携を密にとっている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 主治医や管理者の指導のもと、柔軟な対応が出来ている状況に合わせて、食事や、衣服、居室内の環境も考えている。		ご本人や家族さんの思いを大切に職員は対応している。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) ホームでの生活の様子や嗜好品、好きなことなど、文書化して、報告し連携をとっている。又、いつでも連携がとれるように体制を整えている。利用者の馴染みのものや、使用している福祉用具などそのまま使えるようにしている。		介護要約書を作成し、個人情報の交換を行っている。いつでも相談にのれるよう職員全員が対応出来るようにしている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 常に気配りを行い、丁寧な言葉使いを心掛けている。特に排泄面では、気を付けている。又、職員同士で適切でない場合は注意し合うようにしている。 (外部評価) 言葉かけや対応が不適切な時にはその都度職員間で注意し合っており、利用者の尊厳を守るための徹底した指導体制が確立している。昼食時に汁物をこぼした利用者に対し、本人の誇りを損ねないよう配慮した言葉かけがなされていた。		不適切な言葉掛けや対応があった場合は、その都度直すように指導している。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 「受容」の姿勢を心掛け、利用者さんのやりたいことに耳を傾け、出来ることを見極め、ケアプランにも盛り込んで、日課として取り組んでいる。些細なことでも、続けることで満足感を持っている。		職員がすぐに答えを出すのではなく、うまくご本人が決定出来るような声掛けや場面を作っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人の生活のペースに合わせて、働きかけをしている。入浴など、拒否がある時は時間をおいたり、翌日にしたりと臨機応変に対応している。 (外部評価) 昼食後、居室で休む、居間のソファで気の合う方同士でテレビを見る、ゆっくり昼食をとる等、一人ひとりがそれぞれのペースで過ごせるよう支援している。また、別ユニットの利用者と話したい方をお連れする等、利用者の希望に沿った支援をしている。		1日のおおまかな流れはあるが、利用者さん主体の介護を大切に、その日の気分や体調に応じて対応している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 利用者さんの希望に添って対応している。家族さんと美容室に行かれたり、家族さんが散髪して下さる。夏は、甚平や浴衣を着られる方もいる。		ホームでも散髪出来るように美容師さんに来ていただいている。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 1日の献立を発表したり、食べたいものや調理方法など利用者さんに聞いたりして食事を楽しみにしてもらっている。職員も一緒に食事をとり、感想など聞きコミュニケーションをとっている。食器の片付けや、食器洗いを利用者さんが手伝ってくれる。 (外部評価) 自分で食事をとることのできる利用者が、食事介助の必要な利用者を見て、自分も介助してもらいたい時は、少しだけ介助をし、本人が納得して自分で食べ始めたら見守る等、きめ細かな支援をしている。また、ユニットごとに検食者が食事の評価をし、より良い献立になるよう努めている。		ホームで食事を作ることで、音や匂いなどで食欲増進を促している。お好み焼きやすき焼きなどテーブルの上で作り、家庭的な雰囲気を持っている。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 利用者さんの好きな物をご本人から聞いたり、家族さんから聞いたりして、おやつなど考えている。又、家族さんが、持って来てくれるおやつを楽しみにされている方もいる。現在、飲酒や喫煙をされる方はいません。利用者さんと一緒におやつを買いに行っている。		水分補給時など好きな飲み物を提供している。桜餅を作ったり、収穫したじゃが芋でおやつを作ったりして入居者さんと一緒に手作りしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) プライバシーに配慮し、一人一人の出来る力に合わせた支援を行っている。一人一人の排泄パターンを把握し、より良い援助を職員で話し合い無理のないようにしている。失禁のないよう、排泄時間を記入するなどして時間を考えて誘導している。		一人一人のケアプランをたて、利用者さんや職員間でより良い方法を考え家族さんにもお話している。なるべくトイレでの排泄を考えているが、状態に応じてポータブルトイレを使用する時もある。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 利用者さんの希望に添って、臨機応変に対応している。状態の不安定な入居者さんや、拒否のある入居者さんに対して、時間をおいたり、翌日に変更したりと無理のないようにしている。リフトを使用してゆったりと入浴出来る。ゆず湯などもしている。 (外部評価) 重度の方にも入浴を楽しんでもらえるよう、リフト浴の設備がある。基本的には週2回以上の入浴となっているが、利用者の状態に応じて、入浴できない時には清拭をしたり、必要であればシャワー浴を利用するなど清潔の保持に努めている。また、車いすごと入浴できる特殊浴槽が関連施設にあり、必要時には利用可能である。		入浴前には、必ずバイタルチェックを行っている。菖蒲湯やゆず湯などの行事も大切にしている。他の館の利用者さんのリフト使用もある。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) いつでも、休息がとれるように居室やホール内をオープンにしている。夜間は、眠たい時に声掛け、誘導するなどして利用者さんのペースに合わせている。傍について安心して入眠出来るようにすることもある。		傾眠がある時は、居室で休憩をとっていただいている。昼夜逆転のないように日中の活動に気を付けている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 家事の好きな方は、洗濯物たたみをされたり、掃除をしている。歌の好きな利用者さんは、皆さんの前で披露したり、毎朝の体操の時に歌ったりして笑顔が見られる。毎朝、日めくりをめくるのを日課にして楽しみにされている入居者さんもいる。 (外部評価) 暮らしの中で利用者の好きなことが役割となっており、洗濯物たたみ、草引き、日めくり、ゴミ捨て、買い物時の荷物持ち、台拭き等を楽しみながら行っている。活動的な方はデイケアへ遊びに出かけられるよう支援している。毎日曜日、3ユニット合同の交流会を持ち、花見や誕生会、よもぎ蒸しパン作り等一緒に楽しんでいる。		日常の様子など新聞に載せて家族さんにも知っていたいでいる。手伝いなど職員全員が感謝の気持ちをいつも持って言葉掛けしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 認知症の進行に伴い、現在お金の管理がご自身で出来る方がいない。		職員のお金の管理の元に、おやつなどご自分の買いたいものを選んでもらい、支払いは利用者さんにしてもらっている。利用者さんの希望で、職員が買ってくることもある。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) お天気の良い日は外で体操や、散歩をしたりお寺参りに行っている。家族さんの面会時、その時のご気分と一緒に外出される方もいる。 (外部評価) 毎朝駐車場でラジオ体操を行い、また夕涼みのため戸外に出ている。近くのスーパーやコンビニに買い物に出かけたり、散歩をしたり、一人ひとりの希望に合わせて外出支援している。遠出をする際は関連施設の車を借りて出かけている。		それぞれの体調によって、外出の場所や時間を考えたり服装などにも気を付けている。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族さんと一緒にの外出も自由にしてもらっている。		家族さんと外出される時は、外出届を出してもらい外出時の様子を教えてもらっている。花見やお寺参りなどもしている。写真を撮って後で家族さんに見ていただいたり、利用者さんと話している。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者さんの希望がある時は、電話をしていただいている。現在手紙のやり取りをされている方はいない。		電話をしたい時は、いつでも出来るようにしている。ホームから毎年年賀状や暑中見舞いのはがきを送り利用者さんと一緒に読んだり、居室の見える所に貼っている。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 家族さんは、いつでも気軽に訪問され居室でお話しされたり、ホールでは他の利用者さんに声を掛けていただいている。職員は、いつでも笑顔で対応し利用者さんの日常の様子を報告したり、雑談をしたりして、明るい雰囲気がある。		家族さんと利用者さんが、居室でゆっくりされている時は、静かに見守っている。面会の方も利用者さんと一緒にお茶を飲んだり、おやつを食べて過ごしていただいている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) マニュアルを作り、職員全員が目を通し学習している。身体拘束はしていない。		点滴を抜いてしまう時など家族さんに見守りの協力をお願いしている。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関や出入り口の鍵は掛けず、センサーを付けている。常に職員が気を配っている。 (外部評価) 玄関にセンサーをつけ、外出を察知できるようにしている。書類の記入時にも見守りしやすいよう、机をホールが見渡せる向きに配置している。できるだけ鍵をかけないケアを心がけているが、入浴介助や排泄介助等で見守りが手薄になる場合は、利用者の安全に配慮して一時的に施錠している。		一緒に勤務している職員がお互いの居場所を確認しあい見守りをきちんと行っている。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 常に利用者さんの所在を確認している。居室で過ごされている時は、職員がそっと様子を見たり必要であれば声掛けし手助けしている。		夜間はまめに巡視を行い経過表に記入している。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物品は利用者さんの手や目の届かない所にまとめて保管している。		居室内での転倒につながる家具などの配置など利用者さんと相談して移動している。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 研修に参加して学習している。事故やひありはっとの報告書を作成し職員間で話し合い、反省点や対策を検討し事故の防止に努めている。		研修に参加出来なかった職員は資料に目を通しレポートを書いている。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) マニュアルを作り、職員全員が目を通し学習している。管理者から定期的に指導がある。AEDの設置に伴い、使用方法の説明を受けている。		AEDを西館に設置。毎年の救命講習に一人でも多くの職員が参加できるようにしたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 防災訓練を定期的に行っている。 (外部評価) 年2回、消防署の協力を得て日中を想定した避難訓練を利用者と共に行っている。自立歩行の困難な方が多いため、火事を出さないよう火の始末には細心の注意を払っている。また、運営推進会議でも地域の方に協力をお願いしている。	※	年2回消防署の方に来ていただき指導を受けている。 職員の緊急電話連絡網を作成して災害に備えているが、特に夜間の災害時にはすぐに駆け付けられる利用者の家族や地域の方に協力を得られるよう具体的な取り決めをしておくことや、夜間を想定した避難訓練に参加してもらうこと等を期待したい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 家族さんに利用者さんの日常の様子を詳しく話して、起こりうる危険に対してどのように対策を行っているか報告をしている。危険防止の為にどうすればよいか、職員間で話し合い利用者さんの状態に応じてより良い方法を見出すよう努めている。		家族さんにもカンファレンスに参加してもらっている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日、バイタル表に記入し少しの変化でも管理者や主治医に報告し指示を受け対応している。個人の状態の変化は、日誌に記入し、申し送りをし職員全員が把握出来る様にしている。		バイタル表には、血圧、体温、排尿回数、便の状態も記入している。毎日の体温、脈拍をグラフ化して分かりやすくしている。バイタル測定を状態に合わせて、1検～3検へ変更している。体重測定を毎週行いグラフにして分かりやすくしている。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) おくすりについての表があり、薬に変更があった時には目を通し、いつでも確認出来るようにしている。薬の管理、服薬は職員が介助している。		薬に名前が書いてあり、服薬の間違いのないようにしている。錠剤を飲めない利用者さんの場合は、主治医に相談し、薬局で粉砕にもらっている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 主治医に相談し、一人一人の状態に応じて、排便コントロールをしている。飲み物のチェックや食材に気を付けている。便秘時には、腹部マッサージしたり、冷水を飲んでもらったりして排便を促している。		頻回な便意による不快感などないか一人一人の状態を把握し、気持ち良く排便できるよう援助している。やむなく、下剤を使用する場合は量を調節し負担のかからないようにしている。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者さんの状態に応じた口腔ケアを行っている。クルリーナや舌ブラシ、ガーゼなどそれぞれ状態に応じて使用し、ご自分で上手に出来ない方への援助を行っている。		義歯の清潔保持、管理を利用者さんと一緒に行っている。ホーム新聞で口腔の大切さを外部の方にも知っていただいたり、クルリーナなど特殊な用具の使用方法や紹介をしている。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バイタル表に記入し、1日トータル量がわかるようにしている。食事や水分量が少ない時は、1日を通してバランスよくとれるようにバイタル表を見ながら対応している。胃ろうによる経管栄養の方の管理も出来ている。 (外部評価) 母体診療所の管理栄養士が立てた献立を基本に、近所の方にいただいた野菜をメニューに加えたり、利用者の好みに合わせたりするなど、適宜変更している。体重の増減をグラフ化して食事量を調節し、適切な水分量の確保にも心がけている。利用者の状態に合わせて刻み食、ミキサー食、お粥等にも対応している。		1日の水分は、1200mlを目安にしている。少食な方や体重の減少が見られ場合など栄養価の高い食品の摂取や栄養補助ドリンクの飲用をお勧めしている。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症対策のマニュアルを作成して実行している。インフルエンザは毎年予防接種を受けている。		ノロウイルスやMRSAの勉強会に参加して他の職員にも学習してもらっている。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 研修に参加したり、マニュアルを作成し清潔保持に努めている。調理用具など定期的に滅菌している。		夜勤帯で、毎日ふきんやまな板など滅菌を行い、清潔にしている。週3回買い物に行き、新鮮な食材を購入している。0-157の研修にも参加して職員も周知している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 庭に花を植えたり、畑など明るい雰囲気であり、通りがかりの人も声を掛けてくださる。常に環境整備に心がけ、家庭的な雰囲気を心がけている。		玄関が広く開放感があり、入口に手作りの案内板を置いたりして、歓迎の気持ちを表している。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を飾ったり、季節に応じた飾り物を利用者さんと一緒に作ったり、馴染みのあるものを飾ったりして工夫している。家族さんが、花や野菜を持ってきてくれるので、飾ったり、献立に盛り込んで利用者さんとの会話もはずんでいる。 (外部評価) 最初に建てられた西館は居室からの眺めを良くするように設計されているが、日中ほとんど居間で過ごす方が多いため、東館は居間からの眺めも良くするよう改善している。近所の方から頂いた季節の花を活け、利用者が描いた花や似顔絵を飾り、明るい雰囲気である。立て簀で強い日差しを防ぐ工夫もしている。		食卓に散歩で摘んだ花を飾ったり、塗り絵をして壁に飾ったり、笹飾りなど利用者さんと一緒に作って、見える場所に置いている。夏は、西日対策にたて簀やすだれを使用している。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 日中はソファーでくつろいだり、利用者さん同士で話しをしている。ソファーに座る位置が自然に決まってくる。		徘徊のある方は、行動を規制せずに自由にさせていただいている。その場合、常に居場所を確認し見守りを行っている。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 以前からご自分で使用されていた、馴染みのものを置いたり、家族さんが持ってこられるものなど居室に置き、居心地良く過ごせるように配慮している。 (外部評価) 自分が作った俳句を短冊に書いて飾ったり、自宅で猫を飼っていた方は猫のポスターを貼って見て楽しめるようにしている。ベッドや箆笥等の家具も使い慣れたものを持ち込んでいるが、重度化に伴って介護用のベッドを母体診療所から譲り受けたり、家族が新しく購入したりしている。		入所時に、新しい物を買うのではなく今まで使用していた物を、出来るだけ持って来ていただくように家族さんにお話ししている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) エアコンや扇風機を使い、温度調節を行っているが、自然な風、温度を大切に考えている。室内やホール内の換気をまめに行っている。		エアコンの暖房や冷房は、つけっぱなしにしないで、定期的に換気し外気を取り入れている。排泄物の処理は、その都度片付け、匂いの軽減に努めている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレに手すりをつけたり、居室やホールに危険なものがないか確認し配置を考えている。		車椅子からの移乗が出来る様、トイレを開き戸にして利用者さんが、スムーズに座れるようにしている。テレビを掛け型にして転倒のないようにしている。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人一人の状態に合わせて利用者さんが安心して暮らせるよう職員が常に見守りを行っている。側面からの援助を心がけている。		自分で出来る力を活かし、困難な場合はさりげなく援助をしている。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花壇や畑など利用者さんと一緒に草引きや水遣りをしたり、野菜の収穫に参加している。		西館の横の通路につたを這わせている。目で楽しむだけでなく、夏の暑い日には、日陰になるので利用者さんと一緒に涼しく過ごしている。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者主体の支援を行い、ご本人の希望を傾聴する姿勢を大切にしている。話しの出来ない方は、生活の中で変化を感じ取り、職員で話し合っている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	毎食、同じテーブルで一緒に食事を摂り、コミュニケーションをとっている。ソファでゆっくりと話しをする場面もある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	体調に合わせて声掛けし、支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	歌を歌ったり、毎日の日課を促したりそれぞれの場面で利用者さんの笑顔が見られる。「これは、わたしがしたんよ。」と嬉しそうに言われる。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	外出が困難な方が殆どだが、公園や自宅など家族さんとの外出を支援している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日のバイタルチェックで一人一人の状態を把握している。主治医や看護婦がいつでも対応でき、緊急時には他の病院との連携もとれている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	小さな変化やささやきにも耳を傾け、状態に応じて支援を行っている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	平素から交流を持ち、気軽に話しが出来るようにしている。相談ごとには、迅速に対応している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 ② 数日に1回程度 評価) 3 たまに 4 ほとんどない	推進委員会には、地域の方が参加して下さる。地域行事の案内の声を掛けてくださったり、祭りやいのこなどホームに地域の方がきてくださる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① 大に増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域住民の方が、運営推進会議にて貴重な意見を述べてくださる。又、ホームを理解していただき応援もして下さる。
98	職員は、生き活きと働けている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	笑顔が多く、入居者さんと一緒にいることでいろいろ学ぶことができ、共に生活しているという気持ちがある。職員間もうまくコミュニケーションが取れている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんからの不満の声はなく、ゆったりとした生活を送っている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	いろいろお話することで、わだかまりのないように努力している。家族さんからの苦情は殆どない。推進委員会などで、家族さんはいつも誉めてくださる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

よい環境の中で、利用者さんが楽しく笑い合いながら過ごしている。職員がまじめに努力し、明るく好感が持てる。健康管理が行き、主治医や管理者の指導の元、職員が急変時にもすぐに対応できる。